



中小企業の元気が

東大阪の元気!

これらの中小企業は、東大阪の経済と産業を支えてくれているとても重要なものです。

私たちが暮らす東大阪には、いろいろな種類の中小企業がたくさんあります。そのため、東大阪は「中小企業のまち」や「モノづくりのまち」といわれていて、全国でも有名です。

今回の「すくらむ」では、「どうやってたら中小企業もつと元気にがんばれるまちになるか」について、いっしょに考えます。市でつくった制度とあわせて解説しますの

で、くわしくは中を開いてみてください。

知っておこう! キーワード

中小企業とは、働いている人の数や資本金(会社を運営するための使うお金)が中規模または小規模の企業(会社)のこと。その基準は製造業、サービス業などの種類によって定められています。

英田北小学校の児童が
モノづくり工場を見学

くわしくは次のページへ

市役所も
中小企業を応援します

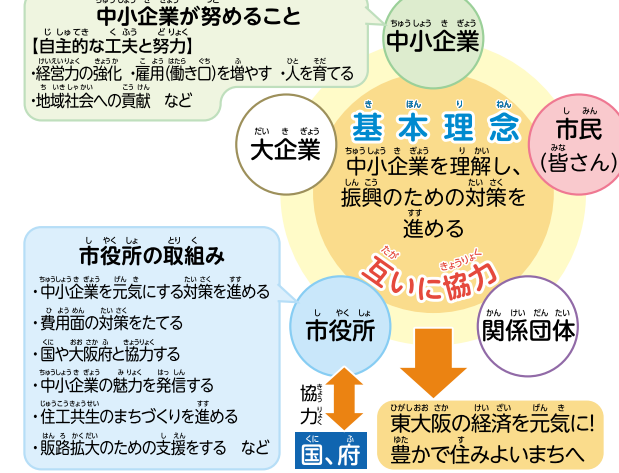
東大阪の経済を支える
たくさんの中企業の皆さん



！ 地域経済をもっと元気に
中小企業振興条例

なぜこの条例ができたの？
条例にはどんなことが書かれているの？

東大阪には、2万9000もの企業（会社）があります。そのうち、99%が中小企業です。
中小企業には、モノづくりをする工場だけでなく、商店やサービス業、流通業なども含まれます。
これらの中小企業が元気になると、東大阪の産業全体が活気づき、雇用（働くところ）が増加するなど、まちのにぎわいにつながります。
この条例は、東大阪の経済と生活を活発にし、東大阪をさらに元気にするために



この条例では、東大阪市の中小企業をより元気にするための基本理念（基本的な方向性や姿勢）と、そのために市役所が進めていく取組みなどが書かれています。

条例のもととなる考え方（基本理念）
中小企業が自主的に、経営面や雇用面などについて工夫と努力をすることを基本としています。
そのうえで、中小企業、大企業、市民皆さん、市役所などが中小企業の大切さを理解し、それぞれの役割を果たしながら協力して中小企業振興のための対策を進めていくこと、としています（図参照）。

！ 住工共生のまちづくり条例
「モノづくりのまち」であることに誇りを
なぜこの条例ができたの？

東大阪には6000を超える工場があり、園芸から人工衛星まで、何でも作れるモノづくりのまちとして全国でも有名です。
一方で、東大阪は西日本経済の中心である大阪市と隣りあう便利なまちであるため、多くの人が生活する住宅都市でもあります。
近年は、工業地域などでも住宅が建ち、工場と住民との間で互いの快適な環境を守ることが難しくなってきました。

親子の絆とモノづくりへの興味を深める
わくわく祭を開催
5月12日、株式会社カワキタ（荒川）でわくわく祭が行われ、120人を超える子どもたちと保護者らでにぎわいました。
このイベントは、今回で3回目。当初、河北一朗社長がビジネスを通して何か地域に貢献したいと思っていて、子育て中の女性社員が「子どもや夫に会社のおすすめを見てもらえるイベントがあったら」と言ったのがきっかけで誕生しました。

河北社長に聞く／社会の中の中小企業
日本の会社99.7%は中小企業です。また、中小企業で働く人口は全労働人口の70%にもなります。しかし、マスコミの報道は大企業が中心で、中小企業の技術や開発した商品がどれだけ隠れているか、そういった明るい話題がみんなに届いたら、中小企業っておもしろい／ここで働いてみたい／と思ってもらえるのでは。
東大阪でこの二つの条例ができたのはうれしいことです。ただ、このことをいかに多くの方に知ってもらい、うまく活用していくかが大切なのではないのでしょうか。

株式会社カワキタ
住工共生のための取組みに補助金を交付
住宅とモノづくり工場が共生できる環境づくりのために、次のような場合は市役所から工場に対して費用（かかったお金）の一部を補助します。
▽住居地域などで製造業を営むモノづくり工場が、モノづくりを進める地域などへ移転する場合
▽工場から発生する騒音や振動から住民の生活を守るため、建物の工事などをする場合
▽モノづくり工場への理解を深めてもらうために地域住民とふれあうイベントなどを行う場合

条例にはどんなことが書かれているの？
この条例では、住工共生のまちづくりについての基本理念（基本的な方向性や姿勢）と、そのために市役所が進めていく取組みなどが

東大阪が今後さらに発展していくためには、工場のモノづくり環境と住みやすい生活環境の両方を守っていくことが大切です。そのために「住工共生のまちづくり条例」が誕生しました。

市役所の取組み
・中小企業を元気にする対策を進める
・費用面の対策をたてる
・国や大阪府と協力する
・中小企業の魅力を発信する
・住工共生のまちづくりを進める
・販路拡大のための支援をする など

市役所では、これらの課題を解決し、中小企業がさらに元気にがんばることのできるまちをめざして「中小企業振興条例」と「住工共生のまちづくり条例」の二つの条例をつくりました。

東大阪市内には、世界に誇れるモノづくり工場がたくさんあります。その中の一つ、フジ矢株式会社（松原2）では、切れ味抜群のペンチやニッパなどを作っています。フジ矢のモノづくりの秘密や社長の熱意を伝えるため、英田北小学校5年生の児童5人が工場を訪問しました。

5年2組 菊野 結衣
5年1組 中村 勇斗
フジ矢株式会社 代表取締役 藤田 恭伸社長
5年5組 岩崎 真央
5年4組 長尾 美優
5年3組 猪岡 祐介

あります。たとえば、うちでは作れないパッケージなどは、東大阪市内の別の企業にお願いしています。このような企業がたくさんあるので、「モノづくり企業」というのは東大阪にとって特別な言葉だと思いますね。
中村さん モノづくり企業の必要性や役割を教えてください。
社長 モノがないと生活にたいへん困りますよね。また、生活を豊かにするうえでもモノは大切です。日本は、石油や鉱物などの天然資源が少なく、モノづくりをがんばらないといけませんね。
猪岡さん 工場のそばには多くの住宅がありますが、企業と住民がお互いに仲良くしていくためには、どうすれば良いと思いますか？
社長 お互いに思いやりをもつことが大切です。うちの場合だと、住宅のあつちの音の出る機械を置か

菊野さん モノづくり企業の社長さんとして、私たち小学生に伝えたいことはどんなことですか？
社長 何もないところからモノができていくところを作る。つてすごいことなんだって知ってほしいですね。いろんなアイデアを活かせることがモノづくりのおもしろさです。みんなも将来の夢のひとつにモノづくり職人を考えてくれたらうれしいですね。

東邦焼鈍株式会社（南庄町）では、毎日昼も夜も休みなく鉄製品の熱処理が行われています。ここでいわれる熱処理は「焼き鈍し」といい、おもに鉄を柔らかくして形を変えやすくするための作業です。熱い大きな機械を使うので、工場内はとても熱く、大きな音も出ます。
数年前に工場のすぐ裏に住宅が建つことになり、引っ越しする住民への騒音対策を進めています。

住工共生のまちづくり
相手の立場を考えて
この日は、モノづくり体験、遊びのコーナーなどがあり、会場は訪れた親子の笑顔と笑い声であふれていました。
イベントに参加した小伝茂咲輝さん（荒川小5年）は「自分の好きなけん玉など遊びができて楽しかったです」と話し、友達とっして参加した升田直希さん

東邦焼鈍株式会社
南庄町のあたりは、日本で初めて伸線産業が栄えた地域です。もともと工場ばかりでしたが、今では工場の跡地にマンションや戸建住宅が並んでいます。
西田社長は「先に工場があったとはいえ、工場と住宅が共生していくためには、お互いの立場に立つて考え歩み寄っていくことが大切。将来を担う子どもたちには、モノづくりに興味をもってもらい、モノづくりのまち東大阪を伝承してほしいですね」と話していました。

切れ味を生み出すのは職人の技！
フジ矢では80人ぐらいの人が働いています。そのうち約50人が工場でモノづくりをしています。工場では、ペンチができるまでの工程の二部を見学しました。
1本の鉄からペンチが完成するまでには、全部で60もの複雑な工程があり、約2か月かかります。毎日3000丁以上のペンチを作り出すには、熟練した職人の技が必要です。
子どもたちは、社長の説明を聞いていました。

モノづくり企業の社長に質問してみました。
長尾さん モノづくりを始めたのはいつですか？
野崎社長 これは、大正12年（1923年）に祖父が始めた工場です。ちょうど今年で90年ですね。
岩崎さん 東大阪では「モノづくり企業」という言葉をよく聞きますが...？
社長 東大阪にはいろいろな種類のモノづくり企業が

市役所の担当職員から
本田敬祐
私たちは市内企業ももっと元気にモノづくりできるように支援しています。みんなにはモノづくりのすこさや大切さを感じてもらい、みんなの住むまちが、全国でも有名なモノづくりのまちだということを覚えてほしいです。

東邦焼鈍株式会社（南庄町）では、毎日昼も夜も休みなく鉄製品の熱処理が行われています。ここでいわれる熱処理は「焼き鈍し」といい、おもに鉄を柔らかくして形を変えやすくするための作業です。熱い大きな機械を使うので、工場内はとても熱く、大きな音も出ます。
数年前に工場のすぐ裏に住宅が建つことになり、引っ越しする住民への騒音対策を進めています。

工場内はかなりの熱気に包まれます。防音壁の内側では大きな音を出しても外には聞こえません。

南庄町のあたりは、日本で初めて伸線産業が栄えた地域です。もともと工場ばかりでしたが、今では工場の跡地にマンションや戸建住宅が並んでいます。
西田社長は「先に工場があったとはいえ、工場と住宅が共生していくためには、お互いの立場に立つて考え歩み寄っていくことが大切。将来を担う子どもたちには、モノづくりに興味をもってもらい、モノづくりのまち東大阪を伝承してほしいですね」と話していました。



ノーベル賞受賞の 山中伸弥さんが名誉市民に

昨年、ノーベル生理学・医学賞を受賞された東大阪市出身の山中伸弥さん（写真）に7月1日、野田市市長から東大阪名誉市民の称号が贈られました。



塩川正十郎さんに続く4人目で、京都大学で学んだ山中さんは「小学校3年生までを過ごした東大阪には父の工場があり、機械に囲まれた生活を送っていました。その中で技術者としての精神が身についたのだと思います。その東大阪からこのような称号をいただけたいへん嬉しいです。今も東大阪に住む母親が一番喜んでくれていると思います」と話されています。

いろいろな細胞にすることができるといわれるIPS細胞の作製に世界で初めて成功されました。

山中さんの活躍は、全世界に夢と希望を与え、さらに本市の発展に大きく貢献するものであるとして、名誉市民の称号を贈ることが決まりました。名誉市民は、上野義雄さん、司馬遼太郎さん

家から出たごみはどこへ行くの？ ごみ処理のながれを学習



～弥栄小の巻～



5月31日、市役所の環境部の職員さんがごみを集める「パッカー車」といって、しよに弥栄小学校を訪れ、4年生のみんなに「ごみ処

理」について授業をしてくれたよ（写真①）。この日ははじめに、みんなの家から出るごみがどこへ行き、どうなるのかを教えてもらったよ。家から出たごみは、パッカー車で集められて、焼却工場や燃やされ、残った灰は埋立地へ運ばれたらいい。けれど、いくらでも埋め立てられるわけではなく、からごみと資源を分けること・ごみを減らすことがとても大切なんだ。牛乳パックやペットボトルなどの資源は、ほかのごみと分けると、紙や服に

生まれ変わるんだって。ごみの量を減らすと、そのぶん灰の量が減って埋立地が長く使えるし、二酸化炭素の発生量も減るから、地球温暖化を防ぐことにもつながるよ。みんなも地球のためにごみを分けること・減らすことを心がけよう。その後、外に出て、パッカー車のごみの積み下ろしを見学したり、運転席に乗ったりしたんだ。児童のみんなは、最新の機能が詰まったパッカー車にはしゃぎしていたよ（写真②）。

「パッカー車は安全のため、ごみを積みやすくするために、いろいろな工夫がまわっているんだあ」と思ったんだって。また、2組の堀野菜々美さんは「家で扇風機を使ったりして



アメリカの先生が 学校生活を見に来たよ



6月27日、アメリカのパイモン州から学校の先生10人が、日本の学校生活の

ようすを見るために小阪小へやって来たよ。体育館で行われた全校児童による歓迎セレモニーでは、児童を代表して6年2組の藤井美羽さんが英語で元気よく歓迎の挨拶をしたんだ。

続いて、4年生が琴や太鼓など日本の楽器を演奏し、本場の発音にふれたよ（写真③）。全校児童が英語の歌を披露。ジェシー先生は、みんなの歌声の美しさに驚いていたよ。また質問タイムでは、アメリカではどんなテストがありますかという質問に対する「アメリカでは3年生までテストはありません」の答えに、みんなびっくりしていたね。

そのあと、先生たちは各クラスの授業のようすを見学して、児童のみんなと交流したよ。5年生の英語の授業では、アメリカの先生による本場の発音にふれたよ（写真④）。また日本人

からは、ものの数を英語で言う練習をしたんだ。2組の重國伶さんは「アメリカの先生と英語でいっぱい話せて、緊張したけど楽しかったです」と話していたよ。

また、1・2年生は、けん玉やカルタ、お手玉などで先生たちと交流したんだ。

アメリカの先生とたくさんふれあって、ちがう文化のことを学び、また日本人

東大阪の
おもしろスポットや
すてきな風景を
紹介するよ

スクープ!!
東大阪



リサイクルびんを使って風鈴を作っている「河内風鈴」で風鈴を買ってもらいました。これで、夏を涼しく過ごしたいです。風鈴作りの体験もあるそうですが、真夏は暑くて作業が大変なので、寒くなったらやってみてください。（ペンネーム：立松キャプテン大好きさん）



（写真⑤）全児童が英語の歌を披露したよ。

そのあと、先生たちは各クラスの授業のようすを見学して、児童のみんなと交流したよ。5年生の英語の授業では、アメリカの先生による本場の発音にふれたよ（写真④）。また日本人

からは、ものの数を英語で言う練習をしたんだ。2組の重國伶さんは「アメリカの先生と英語でいっぱい話せて、緊張したけど楽しかったです」と話していたよ。

また、1・2年生は、けん玉やカルタ、お手玉などで先生たちと交流したんだ。

アメリカの先生とたくさんふれあって、ちがう文化のことを学び、また日本人

からは、ものの数を英語で言う練習をしたんだ。2組の重國伶さんは「アメリカの先生と英語でいっぱい話せて、緊張したけど楽しかったです」と話していたよ。